



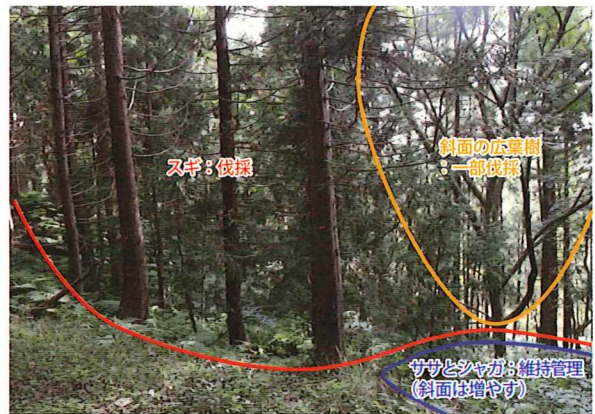
視点場①-1 4月



視点場①-1 10月



視点場①-2 4月



視点場①-2 10月



視点場①-3 4月



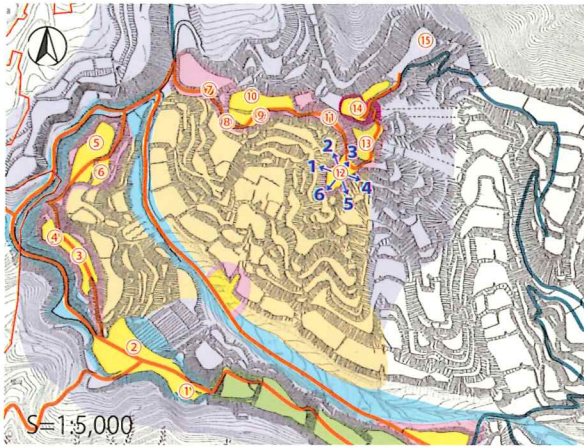
視点場①-3 10月



視点場①-4 4月



視点場①-4 10月



視点場⑫「ゴホンマル」下段曲輪

城の中核周辺の曲輪で、発掘調査では柱穴跡が複数検出されている。視点場のある曲輪及び周辺の斜面に植林のスギが分布している。

現在はスギにより日陰になっているため、地面を覆う草の背丈が低く、春から秋にかけて眺望環境が大きく変化しない場所である。

切岸や曲輪など地形の明確化を図るため、視点場周辺のスギを伐採、整理する。また今後、スギが成長するとその根が遺構を壊す可能性があるため、遺構保護の観点から平場のスギは皆伐する。なお、樹木の整理とあわせて⑬「ゴホンマル」との間の斜面近くに「切岸」の説明板を設置する。

整備後は、スギの伐採による植生の変化に注意する。



視点場⑫ 4月の状況



視点場⑫-1 4月



視点場⑫-1 10月



視点場⑫-2 4月



視点場⑫-2 10月



視点場⑫-3 4月



視点場⑫-3 10月



視点場⑫-4 4月



視点場⑫-4 10月



視点場⑫-5 4月



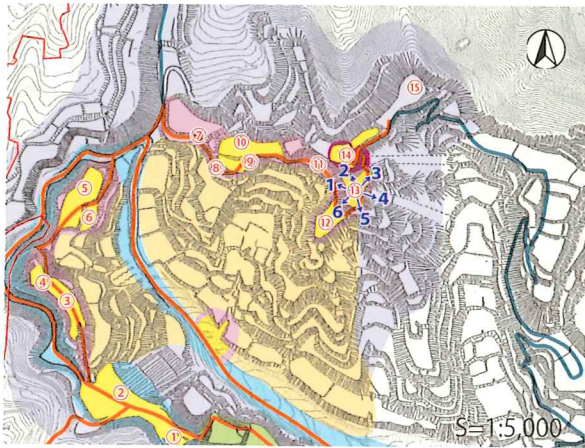
視点場⑫-5 10月



視点場⑫-6 4月



視点場⑫-6 10月

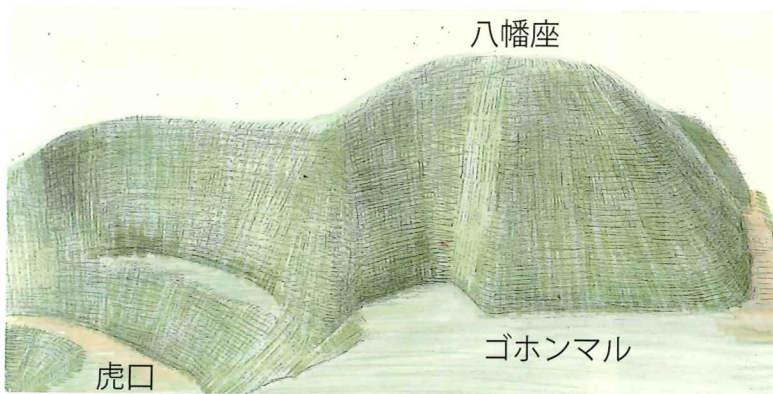


視点場⑬ 「ゴホンマル」

山頂「八幡座」の一段下に位置し城の中核の一部を占める。「ゴホンマル」と呼ばれ、発掘調査で主殿とみられる建物跡が確認された。

⑫同様にスギが分布しているため、平場のスギは皆伐し、周辺斜面のスギも地形の顕在化や眺望確保のため伐採、整理を行う。

スギの伐採後は植生の変化に注意しながら管理を行う。



現況

視点場⑬ 「ゴホンマル」の地形イメージ



視点場⑬-1 4月



視点場⑬-1 10月



視点場⑬-2 4月



視点場⑬-2 10月



視点場⑬-3 4月



視点場⑬-3 10月



視点場⑬-4 4月



視点場⑬-4 10月



視点場⑬-5 4月



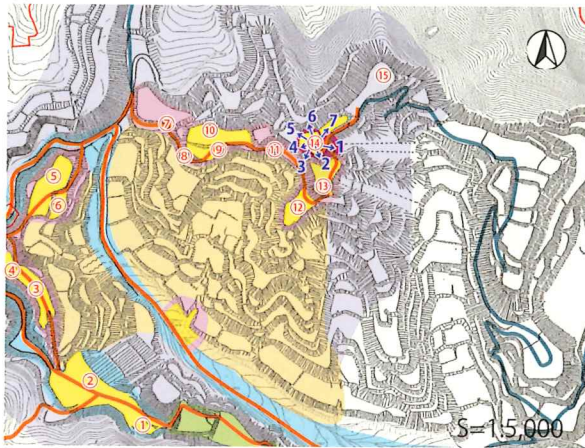
視点場⑬-5 10月



視点場⑬-6 4月



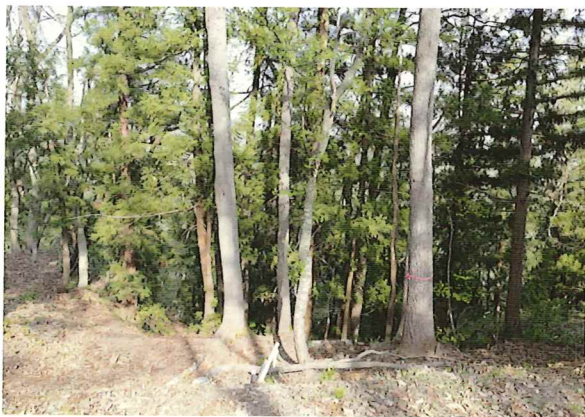
視点場⑬-6 10月



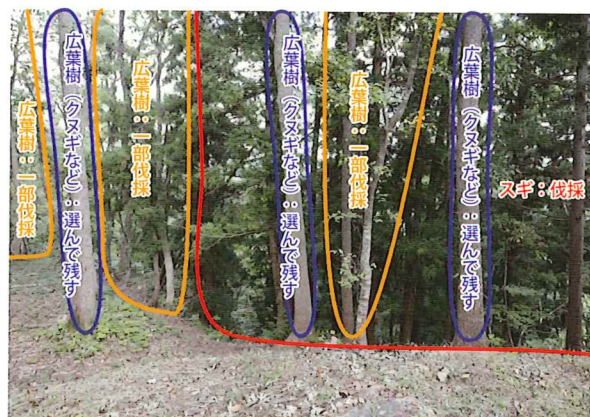
視点場⑭「八幡座」

山頂「八幡座」では発掘調査で確認された建物跡等の立体表示と虎口の整備を行う。

現在は曲輪の四方が樹木に囲まれ見通しが利かないため、楯山公園を見通せるように支障となる樹木を整理する。また、地形が分かるように視点場の南から西に広がるスギなどを伐採する。虎口付近に分布するクヌギは、遺構の復元に支障をきたすものを伐採する。



視点場⑭-1 4月



視点場⑭-1 10月



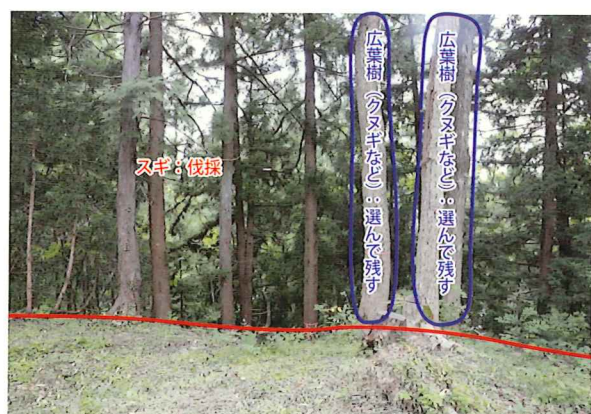
視点場⑭-2 4月



視点場⑭-2 10月



視点場⑭-3 4月



視点場⑭-3 10月



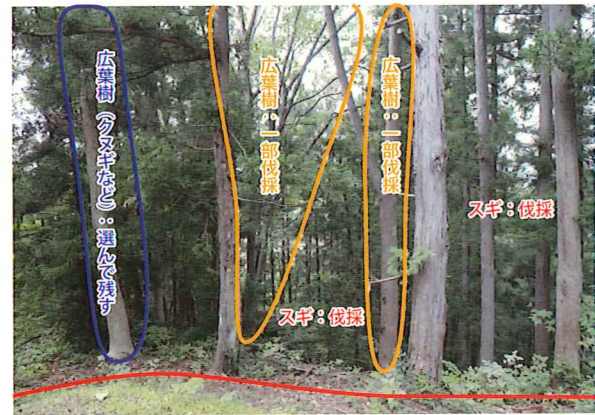
視点場⑭-4 4月



視点場⑭-4 10月



視点場⑭-5 4月



視点場⑭-5 10月



視点場⑭-6 4月



視点場⑭-6 10月



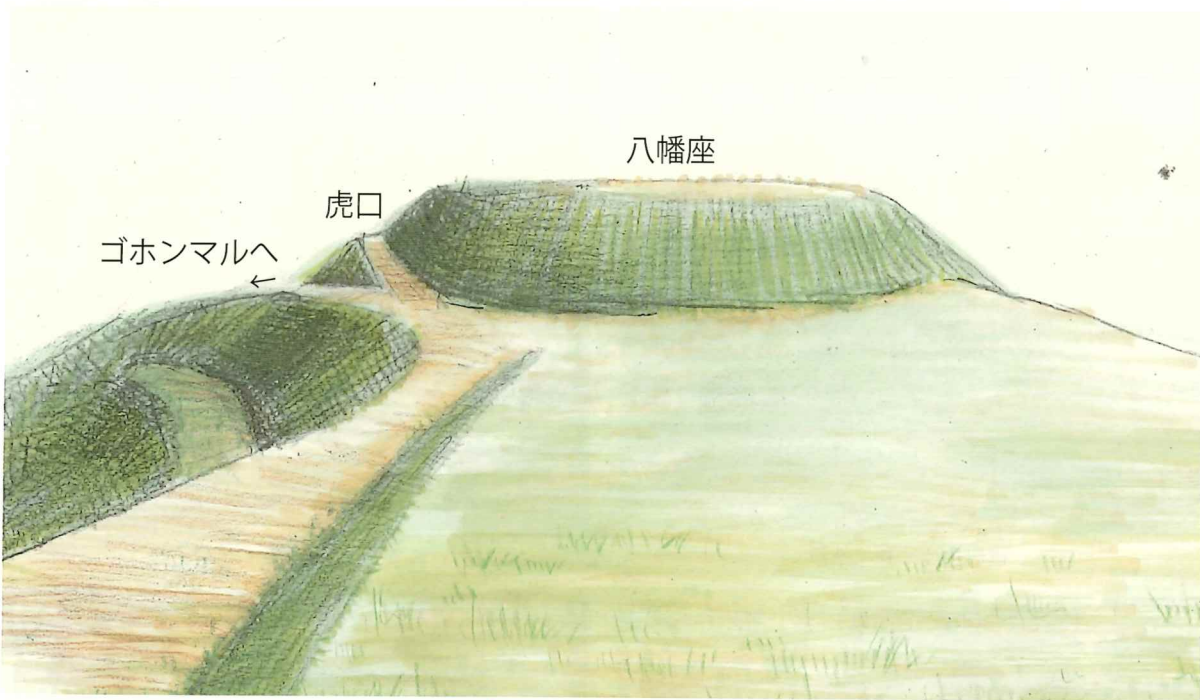
視点場⑭-7 4月



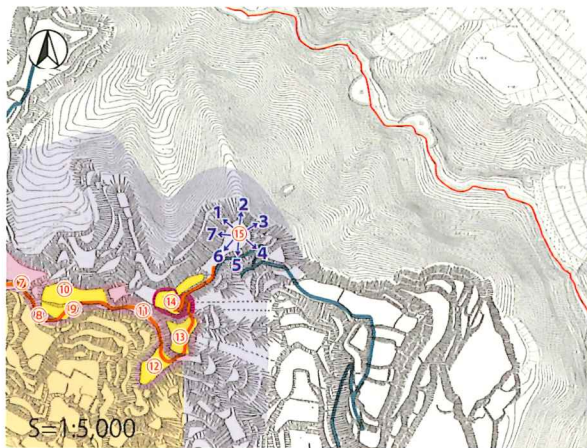
視点場⑭-7 10月



(現況)



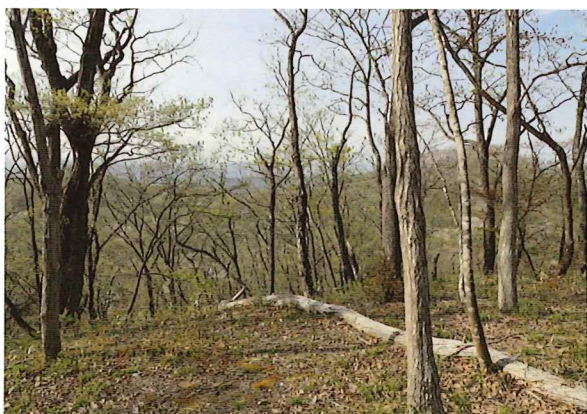
視点場⑭「八幡座」地形のイメージ



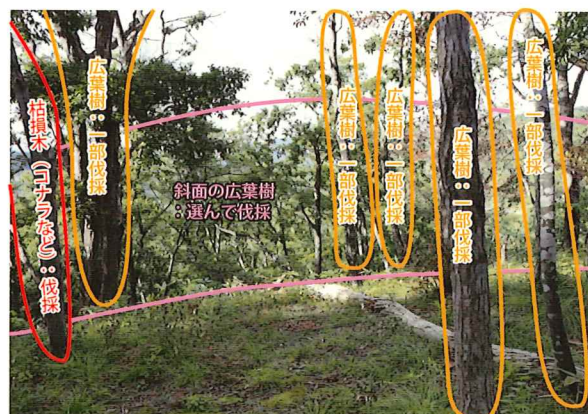
視点場⑮「八幡座」北東曲輪

「八幡座」北東の尾根に張り出した曲輪である。早春や晩秋は、山城北側の防御を構成する檜木沢や、檜木沢の対岸に位置する松川橋跡、山形自動車道路まで見通すことができる。

視点場のある曲輪では、これまでも枯損木の伐採を行ってきたが、現在もコナラなどの枯損木が残っている。これらの伐採、整理を行って、視点場付近の環境を改善する。



視点場⑮-1 4月



視点場⑮-1 10月



視点場⑮-2 4月



視点場⑮-2 10月



視点場⑮-3 4月



視点場⑮-3 10月



視点場⑮-4 4月



視点場⑮-4 10月



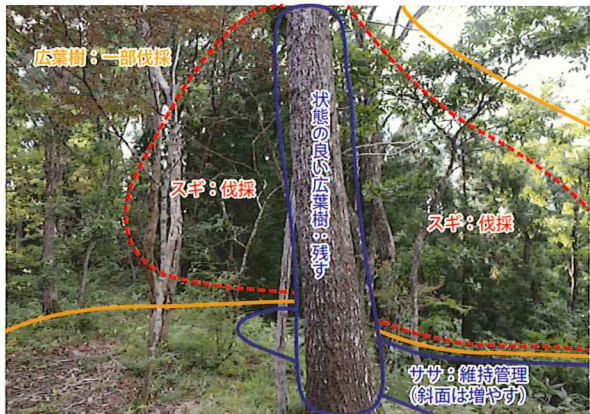
視点場⑮-5 4月



視点場⑮-5 10月



視点場⑮-6 4月



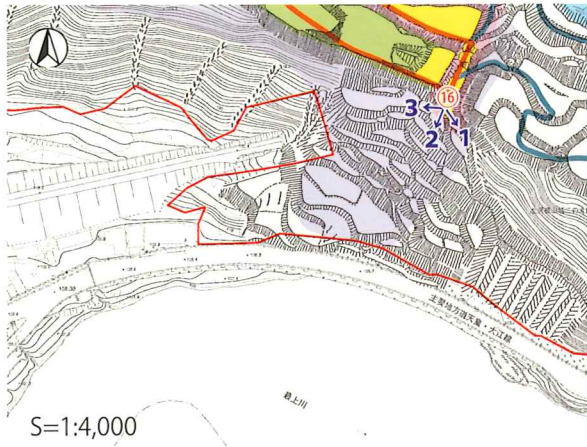
視点場⑮-6 10月



視点場⑮-7 4月



視点場⑮-7 10月



視点場⑩堀切

蛇沢南側の尾根を分断する堀切（箱堀）である。最上川沿いから登る登城路はこの堀切の底を通ると考えられる。最上川を眼下に眺められる場所だが、夏季は植物が茂って眺望が利かない。眺望を阻害する植物を整理して最上川を望めるようにするとともに、堀切の形状が明確になるよう刈り払いを行う。ただし、裸地化しないよう留意する。



視点場⑩-1 4月



視点場⑩-1 10月



視点場⑩-2 4月



視点場⑩-2 10月



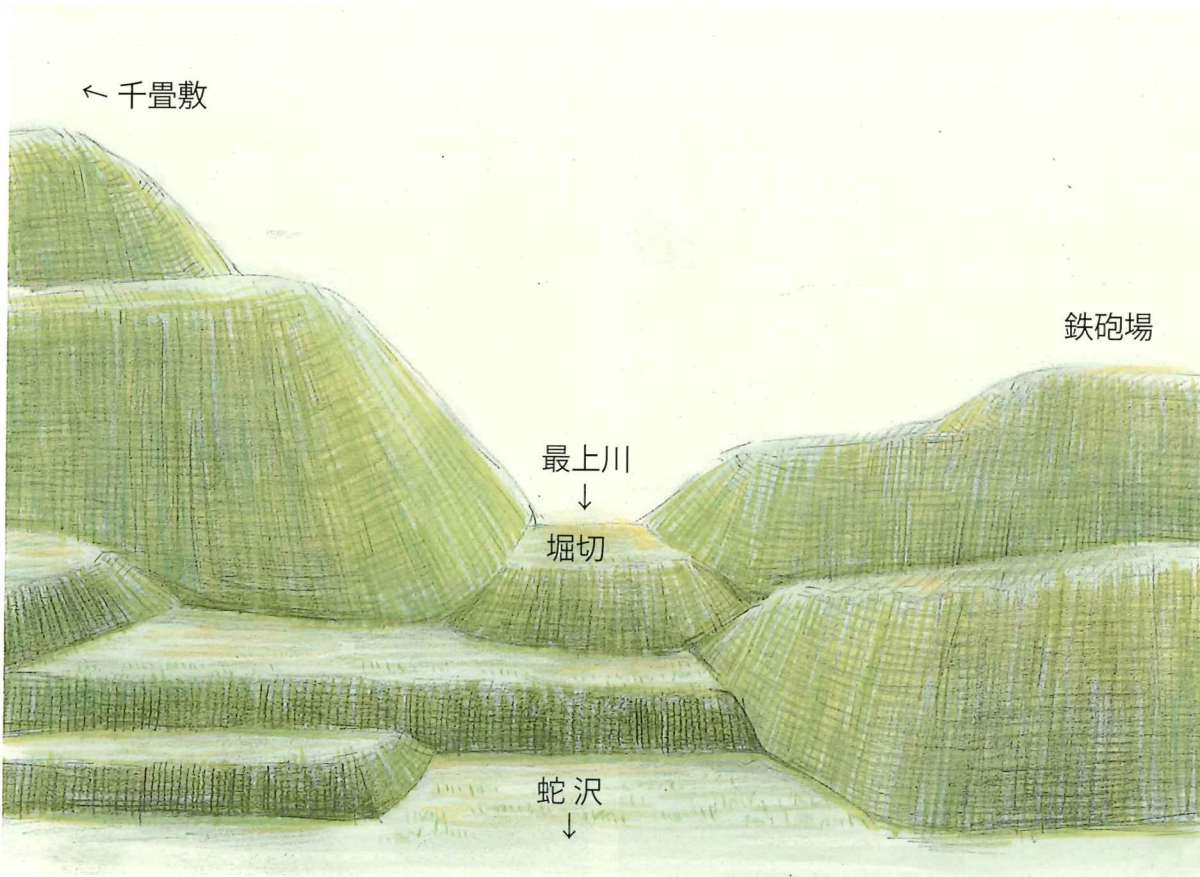
視点場⑩-3 4月



視点場⑩-3 10月



(現況)



視点場⑩「堀切」地形のイメージ

② 樹木の伐採

眺望を確保し城の地形を顕在化するために、樹木の伐採を行う。

城の地形を明確にするため、遺構の表示を予定する山頂「八幡座」周辺は、一部を除いて樹木を伐採する（遺構表示ゾーン）。

「八幡座」への散策路が通る曲輪群は切岸や城道が良好に残っているため、一部の広葉樹を除いて樹木を伐採し、地形を明らかにする（近景整備ゾーン）。城跡の地形が良好に残る「八幡平」から土橋を経て北へ伸びる曲輪、発掘調査で城道とみられる遺構を検出した八幡座地区谷部の登り口や千畳敷西側の堀切なども、散策路や広場付近の地形が見えるように樹木を伐採する（近景整備ゾーン）。

一方で、楯山公園や「八幡平」から城の中核をなす「八幡座」周辺の曲輪群を望めるように、「八幡座」の南から西に広がる丘陵部と谷部ではスギやクルミなどの高木を中心に樹木を伐採、整理する（遠景整備ゾーン）。同様に、「八幡座」への散策路から「八幡平」東側の曲輪群を望むことができるように眺望を阻害する樹木を伐採、整理する（遠景整備ゾーン）。

また、城跡の内から外を望む眺望環境を良好に保つため、城の立地を示す最上川や周辺の楯跡、月山や朝日連峰が望めるように、眺望を阻害している一部の高木を伐採する（眺望確保ゾーン）。

便益施設を設置する楯山公園や管理用道路を整備する蛇沢沿いは、便益施設や管理道路の利用に支障がないように草木を整理、管理する（管理・便益施設ゾーン）。

楯山公園から堀切へ至る尾根上に造られた曲輪群は、散策路の通行が可能となる程度に草木を刈り払う（動線確保ゾーン）。その際、数箇所最上川が望めるようにする。

なお、主に近景整備ゾーンに設けた広場は来訪者が自由に歩きまわられるように草木の刈り払いを行う。

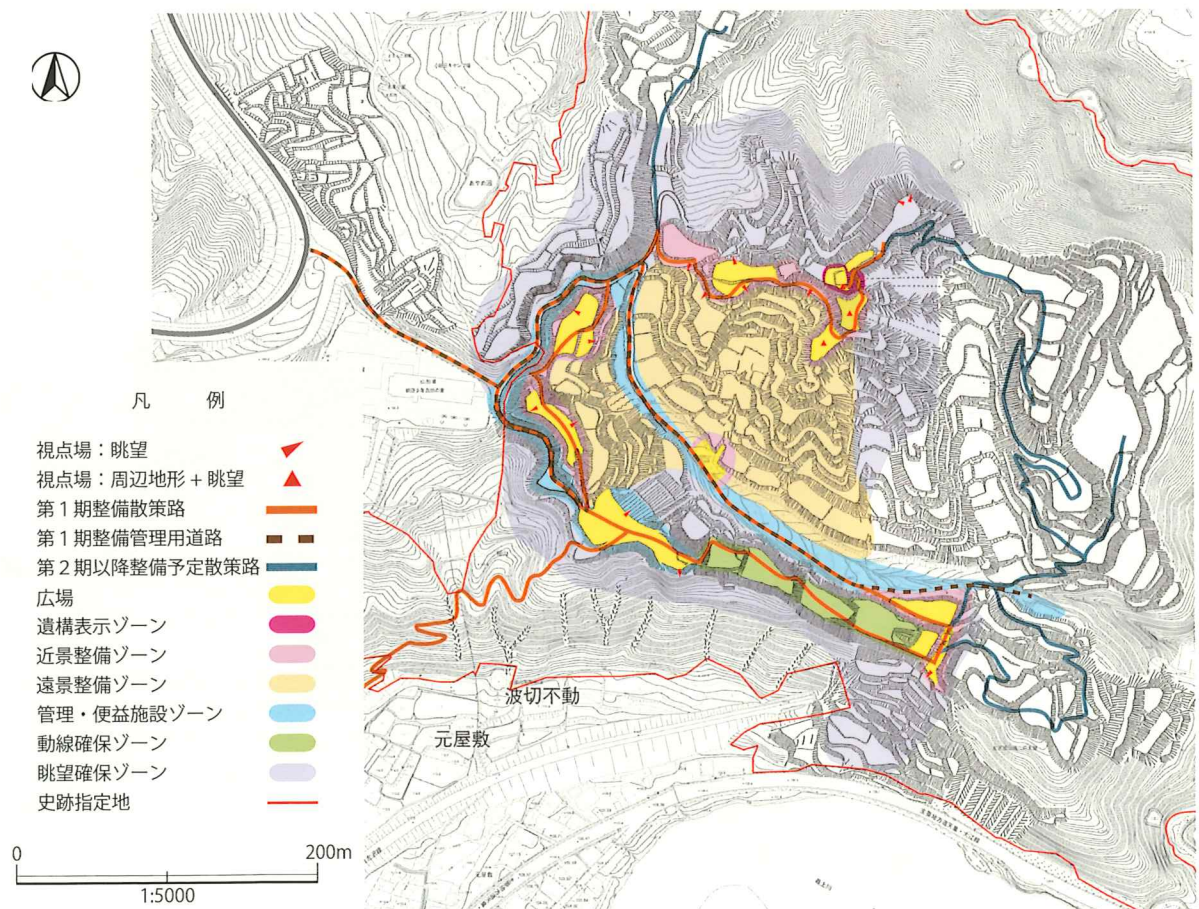


図4 ゾーニング図

また、整備対象地全域において、枯損木など危険な樹木は伐採を行う。

整備後は、高木の伐採により日当たりが良くなり草本の繁茂が進むことや、湿気を好む植物が減少することが予想されるため、伐採箇所はシャガやササなど背丈が高くならず一定の高さで地形を覆う草本が地表を覆うように配慮する。

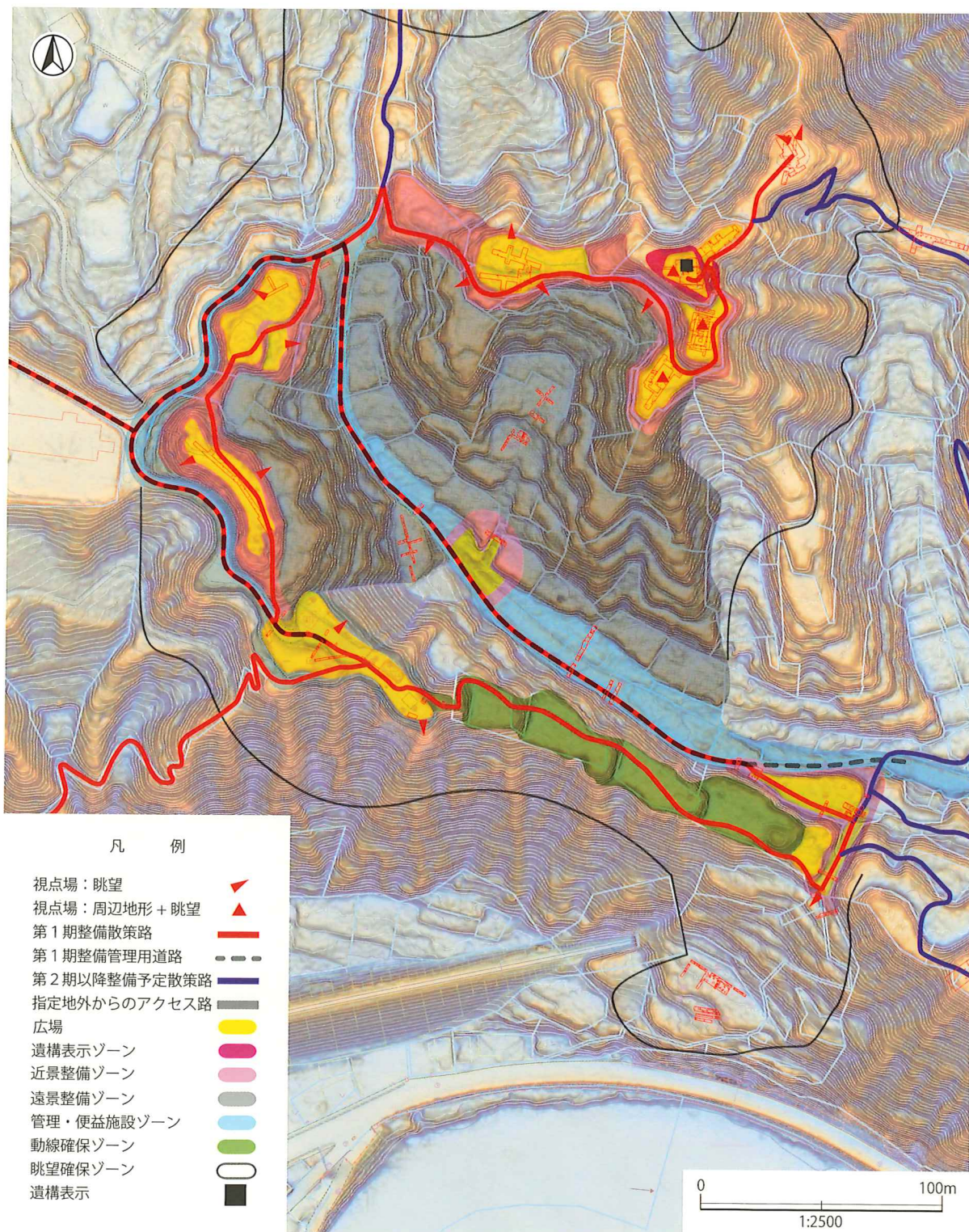


図5 ゾーニング図（陰陽図）

(2) 動線（散策路）

① 動線整備の概要

第1期保存整備では、楯山公園から「八幡平」と、蛇沢上流を經由して山頂「八幡座」へ至るルート、蛇沢沿いに下って堀切に至り、堀切から尾根を登って楯山公園に到着するルートなどを動線とし、来訪者が歩けるように散策路を整備する（図6 全体動線計画図）。

現在の左沢楯山城跡は史跡内を安全に周回できる散策路が整備されていない。このため、全国の山城跡の事例を参考にしながら安全に歩くことのできる散策路を整備する。眺望の確保や地形の明確化など景観の整備（「(1) 景観の整備」参照）や要所要所に設置する案内板（「(3) サイン」）、遺構の表示（「(4) 遺構の表示」）などを通して、山城をイメージしながら歩くことのできる散策路を目指す。

第1期で整備する散策路は、元屋敷からのアクセス路「元屋敷コース」、蛇沢南側の丘陵に位置する「楯山公園コース」「八幡平コース」「鉄砲場コース」、蛇沢沿いの「蛇沢コース」、蛇沢北側丘陵に位置する「八幡座コース」とする。

このうち「楯山公園コース」「蛇沢コース」は管理用道路を兼ねることとし、管理や緊急車両の通行を想定した舗装（アスファルト・カラー）または砂利敷きとする。その他のコースは徒歩のみの通行を想定し、必要に応じてウッドチップを敷いて階段や手すりを設置する。なお、散策路は基本的に現況の地形を生かすが「ゴホンマル」から「八幡座」へ登る道は、調査で確認した虎口の形状を元に道を整備する。それ以外の場所は、できるだけ現在の地形を改変しないよう努める。

第1期整備後は、蛇沢南側の丘陵では尾根上を通る「八幡平コース」「楯山公園コース」「鉄砲場コース」と沢沿いの「蛇沢コース」を通して周回が可能となる（図6）。しかし、蛇沢北側の丘陵では、「八幡座コース」で山頂「八幡座」へ登った後同じ道を引き返すことになる。「八幡座」から城跡東部の「寺屋敷」方面への動線は、現時点は史跡の保存と安全な散策路設置を両立させることが難しいことから今後調査を進め、第2期（寺屋敷上部曲輪～蛇沢間のルート）、第3期（寺屋敷付近）に「寺屋敷コース」付近の整備を計画する。さらに最上川に面した「千畳敷」を周回する「千畳敷コース」などを第4期以降に継続的に整備してゆき、いずれは、史跡内を周回できるような整備を計画する（図6）。

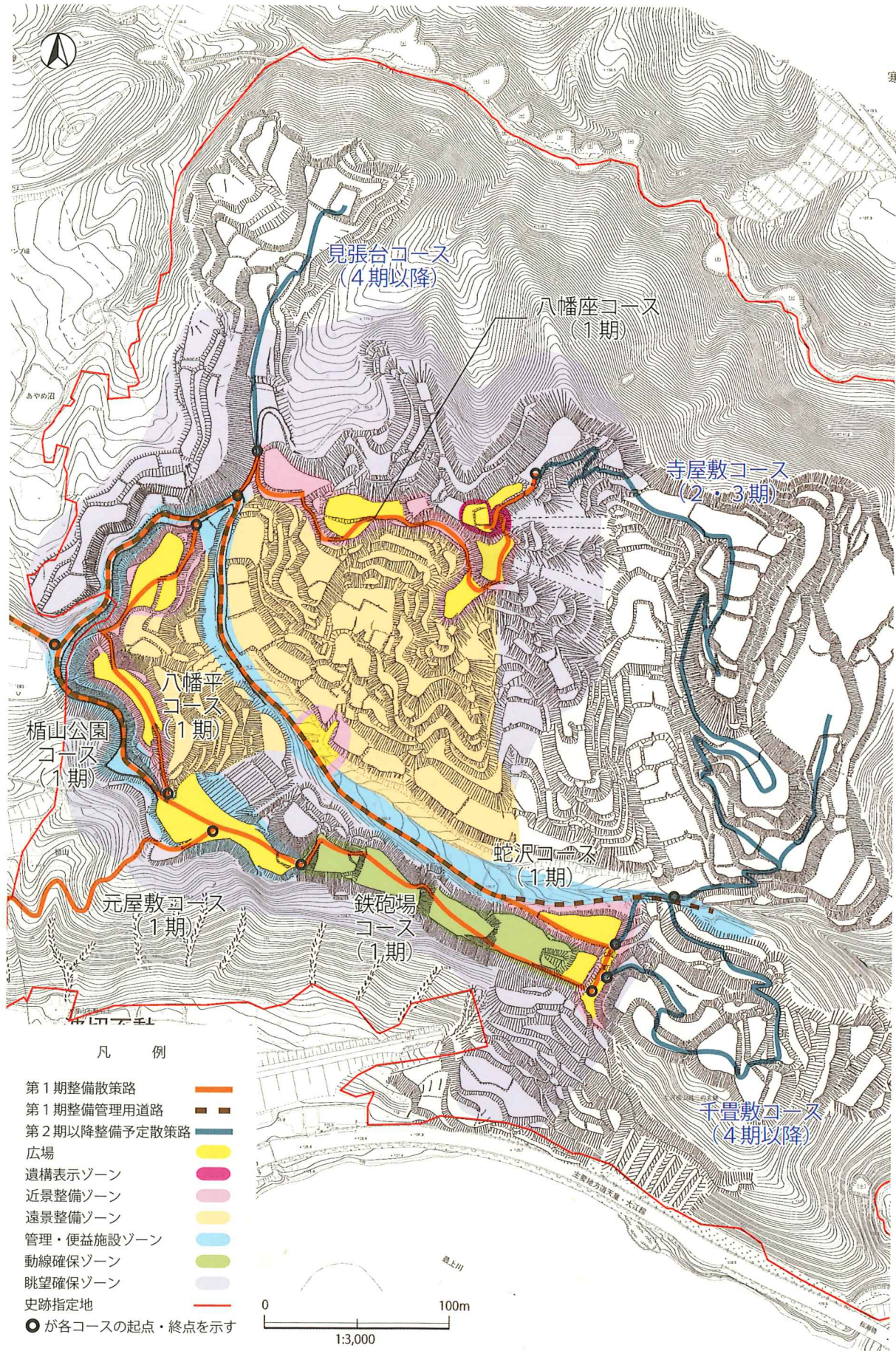


図6 全体動線計画図

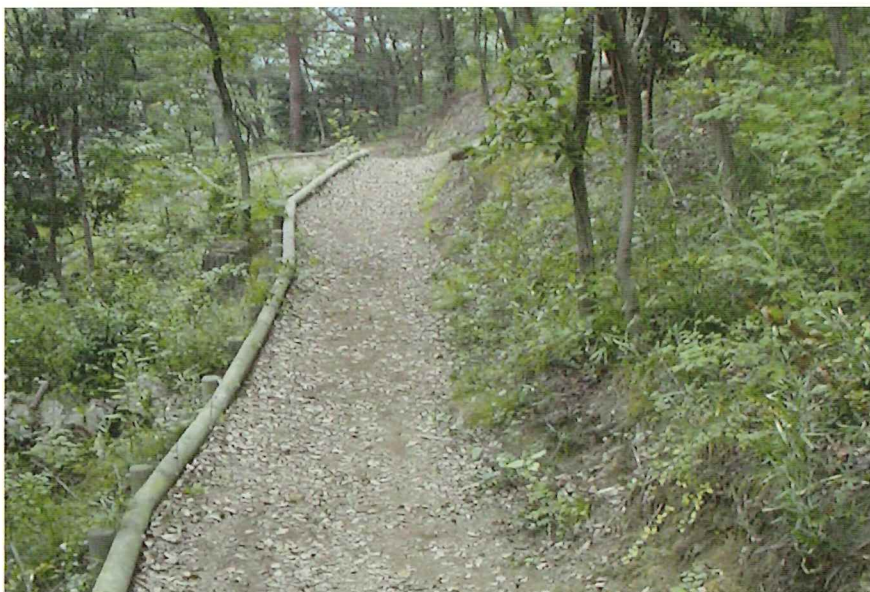
散策路設置例 1
延沢城跡
(山形県尾花沢市)
ウッドチップ敷設



散策路設置例 2
延沢城跡
(山形県尾花沢市)
四角い石を設置、オフロードバイクなどの進入を防ぐ



散策路設置例 3
金山城跡
(群馬県太田市)
路肩に木材を設置





散策路設置例 4
金山城跡
(群馬県太田市)
木材による階段を設置



散策路設置例 5
金山城跡
(群馬県太田市)
路面は人工的な素材を使用



階段設置例 6
安土城跡
(滋賀県近江八幡市)
木製の階段を設置

散策路の整備予定地には、安全性の観点から階段や手すりの設置が必要な場所が存在する（図7）。しかし本来、山城は敵が攻め難いような工夫がされていて、楽に歩き回ることができるように造られたものではない。このため、遺跡の保存上問題ない場所を選び、地山の掘削を極力抑えるなど配慮をしたうえで階段の設置などを行うこととする。

また、大江氏が早い時期に拠点を設けていた最上川方面を望める八幡平コースの曲輪（図3の視点場⑤）や月山や葉山を望むことができる曲輪（図3の視点場⑩）、「ゴホンマル」（図3の視点場⑬）など散策路上の要所となる曲輪は、広場として曲輪の平場全域を歩き回ることができるように刈り払いを行う（図7）。

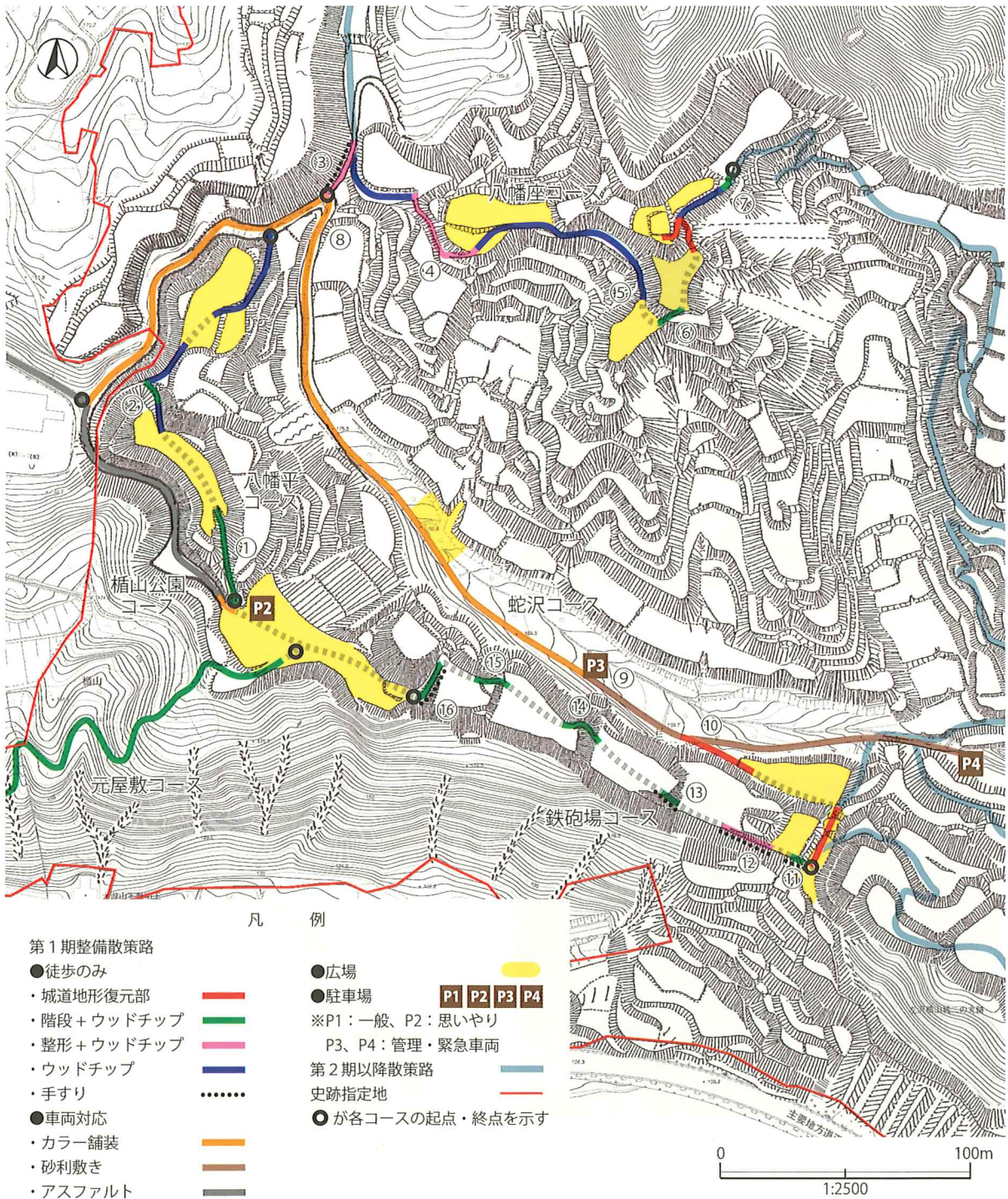
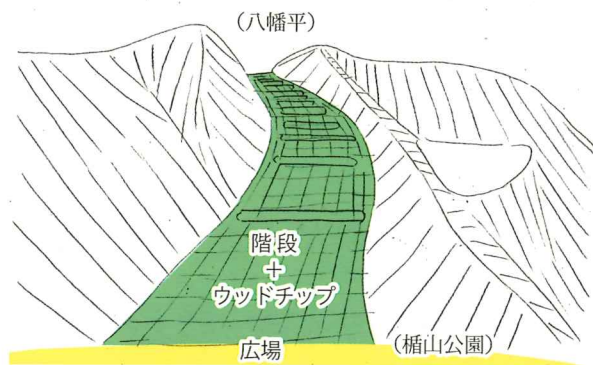


図7 階段・手すり等の設置箇所

※①～⑬は p48～53 の現況写真及び整備イメージの位置を示す。又、凡例の色分けは p48～53 の整備イメージ図の着色と対応する。

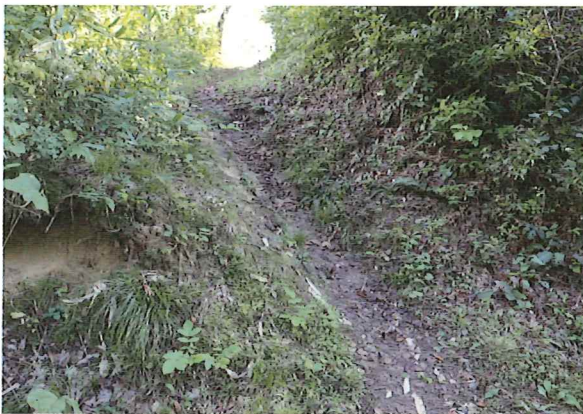


①八幡平コース現況

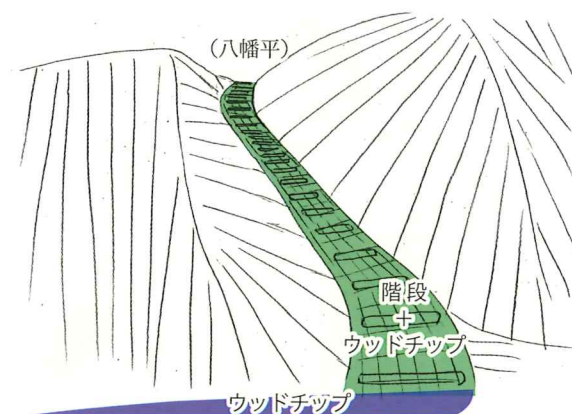


①八幡平コース整備イメージ

①八幡平コース：楯山公園から「八幡平」への登り道は、現在擬木による階段が設置されている。今回の整備ではこの階段を更新し、他の場所に新設する階段と同等の素材、形状の階段を整備する（図7の①、緑色部分）。



②八幡平コース現況

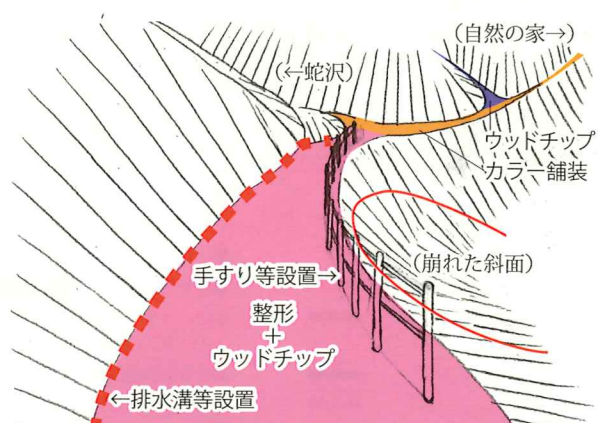


②八幡平コース整備イメージ

②八幡平コース：「八幡平」から土橋へ下る道の急傾斜部は、一部岩盤が露出して地面が濡れているときは滑って危険である。整備時には傾斜部に階段を設置し安全確保を図る（図7の②、緑色部分）。



③八幡座コース現況



③八幡座コース整備イメージ

③八幡座コース：「八幡座」登り口に至る道では、平成25年度の豪雨災害で路肩が崩れたため、現在バリケードを設置して安全確保を図っている。整備では路肩側に柵を設置するとともに、山側に排水路を設置するなど路肩の崩壊が進まないような対策を講じる（図7の③桃色部分）。